

# 所 報

## 氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail [kyouikukenkyl@city.himi.lg.jp](mailto:kyouikukenkyl@city.himi.lg.jp)ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyl



## 楽しい学校づくり

氷見市小学校長会 会長

氷見市立宮田小学校 校長 本川 久直

いよいよ現職を勤め上げるときが近付いてきました。常々、「楽しい学校づくり」をしたいとの思いで職務に努めてきました。子供たちにとって、安心・安全で居心地がよく、学校生活を楽しむことができるようにするためです。楽しい学校とは、子供たちを支える教職員にとっても「働きがいのある楽しい学校（職場）」でもあると考えています。根底には、「心豊かで幸福な人こそが、他人を幸福に導くことができる」との思いがあります。したがって、楽しい学校づくりには、心豊かで幸福な教職員の存在が欠かせません。

### <魅力ある教職員>

心豊かで幸福な人とは、どのような教職員でしょうか。私の思い描く教職員像は、次のような魅力がある人です。第1の魅力は、「心穏やかで、さわやかに行動する人」です。他人を害さず、人と人との間で起きた摩擦を和らげて乗り切ることができます。また、日常に起こる様々な波風をさわやかに乗り切ることができます。第2の魅力は、「朗らかに行動する人」です。朗らかに行動する人は、笑顔を見せることができます。笑顔は花のように人々に安らぎと潤いを与えることができます。

### <人生は一冊の問題集>

ある書籍を読んだとき、「人生は一冊の問題集」であるという言葉が目にとまりました。人は、人生行路という旅路の過程で、その節目には様々な苦悩が立ちまはり、その歩みが遮られます。苦悩とは、生きる上で、自分と自分を取り巻く世界との関係をどう考え、どう行動していくかという、人が成長するために節目で示される問題集の一章であるというものです。その問題集は、決して当人が解けないような難問ではなく、解決に向けたプランの選択と決断によって扉が開き、新たな道筋が展開されていくようなものだそうです。

### <失敗や苦悩という逆境>

解決に向けたプランの選択と決断の後には、場合によっては失敗や苦悩等を味わい、いわゆる逆境の中に身を置くことになることがあります。ここで大切なことは、深い失意に耐えながらも、それが自分に何を教

えようとしているかを読み取り、いつまでも立ち止まることなく、次の一步を踏み出すことができる自分となることです。そのことが、かけがえのない経験となり、人は成長した姿を示すことができます。人生を成長しながら歩いて行くという目的があると考えたとき、失敗や苦悩等の逆境と言えるものは、実は別のものに見えてきます。失敗や苦悩等の中で耐え忍びながら模索し、逆境のときにこそ、何かをつかみ取ることが大切であり、そこに、人の値打ちが出てくるものであると思います。私たちにとって、失敗や苦悩等の逆境を乗り越えることは、正に人生の問題集の一章を避けずに解き進めることだと思います。

### <玉磨かざれば光なし>

「玉磨かざれば光なし」の言葉のように、例えば宝石の原石は、磨きをかけることで輝く光を放つことができるようになります。磨きは、失敗や苦悩等という逆境と例えることができ、輝く光は宝石の魅力であると言えます。これまで、学校における様々な難題に苦悩する場面が数限りなく出現してきました。しかし、その都度、私の周りには多くの魅力ある教職員がいて、共に問題集を解くように、ねじり鉢巻で汗をかきながら、知恵やアイデアをひねり出して、学校教育という問題解決に努めてきました。その努力があつてこそ魅力ある教職員は、更に磨きかけられ、輝きを放ち、心豊かで幸福な教職員として子供たちを支えることができるようになっていきます。

### <人生の財産>

これらのことは、個人を集団に置き換えても同様であり、個人でも集団でもそれぞれが、成長していく過程で問題集を解き進める場面が節目節目において準備されているものだと考えられます。

学校という職場は、個人でも集団でも一つの人生経験の場とも言えます。そこに集った教職員集団が学校教育という職務を通じて、協働で問題集を解きながら、互いに生き方を学び合い成長していくことは、とてもすてきなことであると思います。私にとって、人生の一場面と共に悩みながら「楽しい学校づくり」という問題集を解き進めてきた魅力ある仲間に出会えたことはかけがえのない財産です。

ICT教育推進委員会

タブレット端末等の効果的な活用と教員の指導力向上を目指して

比美乃江小学校 教頭 新田 稔

ICT教育推進委員会では、各校でICT活用推進計画に基づいた取組を進めると同時に、ICTを活用した授業、プログラミング教育の推進に向けた実践的な研究を行いました。

1 各校におけるICT活用の推進

各校のICT教育推進委員が中心となり、タブレット端末が鉛筆やノートと並ぶ文房具の一つとなるよう、学校生活の様々な場面での活用に取り組み、「みんなで学ぼう！ふるさと氷見」のホームページ「まなDX氷見」に掲載しました。また、各校において、全教員が授業等でタブレット端末を活用できるよう、学校の実態や教員の要望に応じた校内研修を実施しました。

2 ICTを活用した授業づくり研修会の実施

ICTの効果的な活用方法について子供の姿を基に協議するため、3回の「授業づくり研修会」を実施しました。公開授業では、教科や発達の段階に応じたICTの活用が行われ、授業後の協議会では、「授業のどの場面でタブレット端末をどのように活用できるのか」をはじめ、教員が今まで培ってきた教育実践とICTとのベストミックスの在り方等、幅広い視点で活発な協議がなされました。

＜授業づくり研修会＞

6/30(水) 北部中学校 1学年 数学科  
 9/21(火) 比美乃江小学校 2学年 国語科  
 11/30(火) 上庄小学校 5学年 算数科



＜ICTを活用した授業づくり研修会 公開授業の様子＞

外国語教育推進委員会

児童・生徒の英語力の向上を目指して

上庄小学校 教頭 山崎 里美

本委員会は、小・中・義務教育学校から外国語科や英語科を担当する教員等6名で構成しました。外国語科から英語科への円滑な接続と、外国語教育の充実を図るために、次のことに取り組みました。

1 ENGLISH セミナーの開催(7/28)

ふるさと教材「We love HIMI!」の活用や、ALT や市内の小中学生との交流を通して、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、ふるさと氷見への理解を深め、ふるさとを愛する心情を高めることを目指して、3つの活動を中心に実施しました。

◇ALT と推進委員によるクイズタイム

～ALT による異文化理解～

◇西條中学校英語部員5名によるモデルプレゼンテーション

～西條中学校と校区紹介～

◇各校代表小学6年生35名によるプレゼンテーション

～私がALTにお勧めする「氷見の素敵」～

～私が自慢したい「日本の文化」～

ここで行われた小中学生のプレゼンテーションは動画にまとめ、「小中共通フォルダー」に保存しました。ぜひ、ご試聴・ご活用ください。



＜児童のプレゼンテーション＞

2 「We love HIMI!」の改訂作業と配本

小・中学校での新学習指導要領完全実施を受けて、令和元年に配本した冊子の改訂版作成（追加項目の吟味、原稿訂正等）を行いました。改訂版は3月に配本しますので、積極的にご活用ください。

## 令和3年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校から8編、中学校から4編、義務教育学校から1編、計13編の応募がありました。教科における主体的な学びを生む取組や授業改善、ICTの有効活用等、今日的な教育課題を反映したものが多く寄せられました。また、よりよい集団づくりを目指す特別活動、地域での体験や地域教材を生かした取組もあり、力作ぞろいでした。

広い視野で適正かつ公正な審査を行い、小学校の部で最優秀賞、優秀賞が、中学校の部で最優秀賞が選出されました。審査結果は下記のとおりです。

### <小学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	灘浦小学校	前澤 稜	地域に学び、本気で課題解決に挑戦する子供を目指して
優秀賞	宮田小学校	小嶋 永治	主体的・協働的に運動に取り組み、自己肯定感を高める授業の在り方
優秀賞	海峰小学校	河 彩央里	つくり出す喜びを味わい、自分らしい表し方でびのびと表現する子供の育成
優良賞	朝日丘小学校	野崎 悦之	ICTの有効な活用を通して、深く学ぶ子供の育成を目指して
優良賞	比美乃江小学校	大畠 侑万	「氷見大好き」と気付き、思いや願いの実現に向けて探究し続ける子供の育成
優良賞	窪 小学校	富樫 阿子	自分の思いを豊かに表現する楽しさを味わう子供の育成
優良賞	十二町小学校	小久保亮佑	進んで社会的事象に関わり、地域への思いを高める子供の育成を目指して
優良賞	海峰小学校	蟹谷 智	ふるさと氷見に誇りと愛着をもつ子供を目指して
優良賞	西の杜学園	山田 風佳	自分や家庭生活を見つめ直し、家族の一員として主体的に学習する子供の育成

### <中学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	南部中学校	青木めぐみ	自分たちで考え、主体的に動き出す集団の育成
優良賞	北部中学校	引谷 樹	中学校国語科におけるメタ認知能力の育成に関する実践
優良賞	十三中学校	宮下 俊輔	主体的に課題を設定して学習に取り組み、学びを自らの生活につなげる生徒の育成
優良賞	西條中学校	中山 隼人	考える楽しさを味わい、社会的事象を主体的に追究する生徒の育成



[実践発表の様子]



[表彰式の様子]

以上の審査結果を基に、去る2月16日（水）に教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。鎌仲教育長からの授賞の後、最優秀賞受賞者の灘浦小学校 前澤稜教諭と、南部中学校 青木めぐみ教諭から、教育実践についての発表がありました。詳細については当インター発行の「令和3年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

## 新規採用教員－1年を振り返って－



### 1年を振り返って

南部中学校 竹内 奎人

全てのもが新しく、期待と不安が入り交じる中で私の教員人生は始まった。自分自身の未熟さのために失敗し、生徒や他の先生方に迷惑をかけてしまうこともあった。一方で、生徒たちの成長に寄り添う喜びを感じることも多かった。合唱コンクールでは、よりよい合唱を目指して練習に励む生徒の姿に胸が熱くなった。教職を志してよかったと思った。

私が生徒たちと充実した時間を過ごすことができたのは、親身になって相談に乗ってくださった先輩教員のおかげである。自分もいつか、先輩方のように教職の魅力を伝えていけるよう、学び続けたいと思う。そして、生徒と共に考え、悩み、成長する教員となれるよう、日々努力していきたい。



### 新規採用教員の 一年間を振り返って

西の杜学園 関口 稚乙

教員になり、1年が経った。この1年で様々なことを経験し、学ぶことができた。特に授業での学びが多く、先輩が生徒の発言をうまく引き出しながら授業を進める姿に憧れた。先輩方のように発問や導入を工夫し、私なりに試行錯誤しながら実践する中で、生徒が主体的に課題に取り組む姿や「教えてください!」と意欲的に質問に来る姿を見て、一人一人の成長を実感した。うれしくて、目の前の生徒たちのためにもっと頑張ろうという気持ちになった。これからも、生徒が主体的に取り組む授業を目指して日々研鑽し、共に成長できる教師になれるよう努力していきたい。



### 1年間を振り返って

宮田小学校 中村友香

私は、小児科病棟での看護師経験、高校での講師経験を通して、幼い頃からの健康教育の大切さを強く感じていた。小学校に配属が決まったとき、小学生の健康教育に携わることができるとうれしく感じた。救急処置や健康相談、感染症予防等、余裕のない毎日だが、校長、教頭、指導教諭、先輩教諭、先輩養護教諭等多くの先生方に支えられ、困難なことも糧に変えて働くことができた。子供が生涯にわたって健康を大切にしようと思えるきっかけをつくり、その方法を教えられることは、養護教諭の仕事の魅力の一つだと考える。理想は高く、目線は低く、初心を忘れずに、これからも精進していきたい。

## 令和3年度「ひみっ子の夢と希望」 きらめき推進事業講演会

氷見市では教育基本方針の基本理念として、「ふるさと氷見を愛し、次代を担う人づくり」を掲げています。このことを受け、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を体験するなど、社会の一員として将来の自分の姿や生き方を考え始める中学2年生を対象に、平成24年から各界の著名人や一流選手等を招いた講演会を開催してきました。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、昨年度は中止としましたが、今年度は市内の中学校の2年生（義務教育学校は8年生）全てが一堂に会するのではなく、それぞれの学校での開催という形で実施しました。概要は以下のとおりです。

### ■十三中学校 7月1日（木）開催〈氷見の起業家〉

講師：「考えるパン KOPPE」竹添 あゆみ 氏

自身の子育てのペースに合わせて週2回のみ営業していること等を説明し、店の成長より、お客さんや自分の満足を大切にしていると話してくださいました。また、普段から考えることの大切さを語り、中学生に読んでほしい本の紹介もしてくださいました。



### ■北部中学校 11月19日（金）開催 南部中学校 12月17日（金）開催

講師：氷見副市長 篠田 伸二 氏

氷見市の素晴らしさを熱く語ってくださり、生徒にとっては日頃当たり前に感じているものの価値について、改めて考える機会となったようでした。また、「情報収集×決断＝今の自分」という数式を示し、何事もまずは情報収集をすることが大切であると教えてくださいました。



### ■西の杜学園 12月17日（金）開催〈氷見の起業家〉

講師：フィッシュザ・ランド「tototo」代表 野口 朋寿 氏

「海の恵みを無駄にしない、持続可能なものづくり」と題して、自身がこの職業を選んだきっかけから今後の展望までを、SDGsの理念も絡めながら語ってくださいました。生徒たちは他県から富山大学に入学し、氷見市で起業した氏の話に興味深く聞き、積極的に質問していました。



### ■西條中学校〈音楽関係者〉

講師：洗足学園音楽大学講師 瀬尾 宗利 氏

1月下旬に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、中止となりました。